



公立病院である中東遠総合医療センターの運営には

市の政策と市民の意見反映が大切では

掛川市・袋井市病院企業団の議員団会議が開催されました。

その中で病院の敷地内薬局が新たに提案されました。規制緩和で始まった敷地内薬局、医大病院など広域医療を担う病院がほとんど。プロポーザル(企画提案型)公募がはじまっています。まずもって順番が違うと思いました。

中東遠医療センター側の主張	薬剤師会側からの意見
・調剤費が安くつく。駐車場に行くまでに薬を受け取ることができ利便性も増す。市民利益になる。	・地域の薬局は処方が減り経営危機になる。かかりつけ薬局がなくなることは地域医療にとってマイナス。
・病院の薬剤師が人員不足と激務で支障をきたしている。業務を肩代わりしてもらえることが中東遠の医療にはなくてはならない選択。	・薬剤師会は今までできる支援をしてきた。センター薬局の日曜日の運営もしている。この条件では採算は合わず、とても引き受けられない。
・大きい薬局が入れば薬も安定供給される。災害備蓄もできる。建築費の持ち出しもない。	・これまでも災害時の薬品備蓄もしてきた。かかりつけ薬局をもとう、という市の要請に答えてきたが、これに逆行する。

条件を見ると、手上げのできるのはどう考えても全国展開の大きな薬局。そこへの集中は地域循環型経済とも相容れませんが、市に落ちた利益は地域外大企業に流れていきます。薬剤師さんが地域にいないなくなつたまちで在宅医療なんてできるのでしようか。訪問看護とともに在宅支援をしてくれる薬剤師さんもこれから必要です。災害時避難所運営を支えるのも診療所と薬剤師さん。中東遠医療センターにとっての利益だけでなく、どうすれば地域医療全体が支えられるのかという視点が欠けているように私は思いました。

今回の病院企業団議会では予算審議もありましたが、処遇改善の給与増額はありませんでした。国のケア額に手挙げをしないという事です。人が来ないという前に、職員の処遇改善や賃上げが論議されてしかりと私は思っています。院長が「職種を越えて全職員への年度末一時金支給を考えている」と発言しましたが、公立の病院で給与支出が議会にかけられないで決められるということ自体が変です。他の市立病院はちゃんと予算化しています。



中東遠医療センターは全国初の2つの市の共同運営なので「組合議会」というものがつくられ、両市の議員10人で年2回ほどの議会が開かれ運営されるシステムです。(私は今年度と来年度病院企業団議員です)

議会後の全議員への説明は議員懇談会でされますが、議決後の説明なので全議員が質疑や討論に加わる場がありません。

市立病院の頃と違って、公立病院でありながら市民の声が届きにくいことが心配です。

女性議員の会「レインボー」を有志で立ち上げました

これまでも防災の研修に参加したり、先進的な取組みのお話を伺ったりしてきました。

今回はみんなでアンコンシャスバイアス(無意識の偏見)のワークショップを行ないました。

偏見だと気づくことがなければ修正も謝罪もないまま人を傷つけてしまう言動を繰り返してしまいます。

男は～ 女は～ 外国人は～ 属性に対するバイアス偏見は差別をうみます。

ジェンダー平等にとってもすごく大切な視点だと思いました。

3.1 ビキニデー集会 掛川 Zoom 会場

3/1(火) 13:00～
生涯学習センター
第3会議室



クロッカスが咲きました

核兵器のない世界に向けて話し合おう
主催：掛川市原水協